

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>20</b>

事業所番号	1490500103
法人名	株式会社 白寿会
事業所名	グループホームふあいと天神橋
訪問調査日	平成23年9月16日
評価確定日	平成23年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500103	事業の開始年月日	平成19年6月1日	
		指定年月日	平成19年6月1日	
法人名	株式会社 白寿会			
事業所名	グループホームふあいと天神橋			
所在地	( 232-0033 ) 横浜市南区中村町5丁目317-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果 市町村受理日	平成23年11月28日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日中は玄関の施錠はせず、誰でも自由に入出入り出来るように成っています。地域とのかかわりを持ちつつ、個々のご入居様が安心して安定した生活を確保出来るように支援します。

笑い声・会話の絶える事のない心安らぐ明るいホームです。心の壁のないオープンなホームを心がけています。

より充実した事業展開を行って行き、気軽に立ち寄っていただけるように地域連携を図って行きます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成23年9月16日	評価機関 評価決定日	平成23年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ・GHふあいと天神橋はJR磯子駅よりバスで15分天神橋下車、バス停より徒歩で3分の住宅地にある。このホームは医療法人平平会のグループで、医療に関するノウハウがある。グループは老人ホームはなみずき、をはじめ多くのグループホーム等福祉関連施設を展開している。法人の連携を利した内部研修も活発に行なわれていて職員の資質向上が図られている。ホームでは法人の理念とは別に職員の発想で、より身近な独自理念「単調な生活とならない様安らぎのある日々を提供します。地域の福祉向上に貢献し、地域との交流を深めていきます。誰でもが気軽に立ち寄れる笑顔を絶やさぬ空間を確保します。」と謳い日々実践している。地域社会との繋がりを大切に、町内会の祭りや諸行事の参加に加え、近くの店舗での買い物等を通じての交流で地域との繋がりが定着している。
- ・医療支援に関しては、母体である「つくいけ内科クリニック」よる週1回の定期検診を受け、みなと赤十字病院、清水ヶ丘病院の協力の下、夜間などの緊急時にも対応した適切な医療支援が行われている。また入居者、家族の希望に沿ったターミナルケアも「重度化した場合における対応に係わる指針」を定め、ホーム長始め全職員共有の下に、看取り介護が行なえる体制を整えられている。
- ・ホームでは様々な災害を想定し、災害時通報連絡網の整備に加え、地域の協力機関との連携で避難訓練を行うと、運営規定に定め、所轄消防署指導の下に夜間を想定した防災訓練も含め、定期的実施している。更に、設備としてスプリンクラーの設置に加え緊急時対応食料、備品の備蓄も行われている。ホーム長の強い想いのもとに、全職員で入居者1人ひとりの排泄パターンの把握と、タイミングを見計らった適切な誘導、人格を尊重した他に気付かれない下着交換などに、加え夜間にも睡眠の妨げにならない事を前提にしたトイレ誘導を行い、「おむつ外し」に取り組みされて成果も見ている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームふあいと天神橋
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の外部評価時に新理念作成の提案を頂き、理念の作り直しを行った。理念を目の付くところに掲示し、すべてのスタッフが同一目線と成るように絶えず、意識しながら実践に向けて取り組んでいる。	ホームでは法人の理念とは別に、より身近なものとして職員の発想で「単調な生活とまらない様に安らぎの日々を提供します。地域の福祉向上に貢献し地域との交流を深めていきます。誰でも気軽に立ち寄れる笑顔の絶えない、空間を確保します。」と謳った理念をつくり、ホーム内に掲載し全職員で、共有して日々のサービス提供の中で実践出来るように取り組んでいる。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	気軽に立ち寄っていただけるように働きかけを行っていて今後も努力して行きたい。利用者個人としてではなく施設としての自治会加入と成っており、夏祭りの寄付も行い参加している。	ホームとして自治会に加入し、町内会の夏祭りには寄付も行い、その他盆踊りなど諸行事にも参加し、加えて避難訓練等による交流もしている。また入居者の散歩時にはこちらから声をかけて挨拶をし、ホームを知ってもらっている。また近くの店舗での買い物等を通じての交流も有り、地域との繋がりが定着している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が増加して来ている昨今より理解してその支援方法が要するようになって来ている。引き続き理解をして頂けるよう、ホーム内での催し・講習会などを行って行きたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に前向きな姿勢を忘れることなく、施設内の事故などもオープンにしてサービス向上に取り組んでいる。運営推進会議の意見・アドバイスを参考にして改善に努めている。	自治会長、民生委員、担当包括支援センター職員、家族、事業所管理者、職員の参加で運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。ホーム概況と今後の行事計画に加え、事故などの発生状況なども報告し、参加者から意見や提案などを頂いて、運営に反映させている。又、災害時協力のお願も行っている。会議の結果を議事録に残し職員間の共有を図っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区町村主催の研修など出来る限り出席して顔の見える関係作りをする事により協力関係を築いている。福祉局や区の高齢者担当に電話連絡により現状を伝え、相談に乗ってもらったりアドバイスを頂いたりしている。	市の福祉局事業指導室とは、ホームの入居状況に加え事故等の報告を行っている。更に市区町村主催の研修には出来るだけ参加するようにして顔の見える関係作りを努め、時には事業所での不明点を電話により相談をしたり、助言を求め、更には高齢者支援を行う現場の立場から情報の提供も行って交流し、事業運営の質の向上に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修に参加し、職員間で勉強会などを行い、周知徹底している。具体的行為については各職員がどの程度理解が出来ているかを事業所ない会議等で把握した上で個別指導も行なっている。玄関の施錠をする事もなく拘束でないと思っている事でも拘束に値する事がたくさんある事など詳細に渡って指導を行っている。	身体拘束については、運営規定12条4項、契約書第6条に原則行わない旨を謳い、研修や勉強会などで周知を行っている。更に時折、各職員がどの程度理解しているか会議等で確認して個別指導も行なっている。また玄関の施錠もしていないが、拘束に該当する行為の詳細をマニュアルで確認し、指導を行って拘束を行わないように努めている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても身体拘束と同様、実例をあげるなど詳細に渡って指導している。小さな虐待尾も見逃す事のないように利用者、職員に声掛を行い、それに繋がる行為などが発覚した時は速やかに対策を講じ防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時研修などに参加し、施設内に資料保管している。成年後見人制度利用の利用者もいらっしゃるの職員も少しずつ理解して来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明のもと、理解を得て納得いただけるように努めている。ご本人面談は勿論の事ご家族とも十分な話し合い・説明のもと、きちんと理解・納得の上の契約としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては常日頃より入居者の意見を尊重し受け入れるように心がけている。家族に対しては重要事項説明書などにより説明を行い、来訪時などに意見・希望を収集し、可能な限り取り入れるようにしている。	苦情対応は契約23条、更に重要事項説明8で窓口担当者名及び公的機関窓口を明記し家族には契約時に説明している。家族の来所時に管理者または職員による面接で近況報告と共に、家族から意見、要望を聴くようにしている。また、利用者からは日頃の会話の中から思いや意見を聴いて、聴取した要望意見はカンファレンスで検討の上、運営に反映させ、結果は家族に報告している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員より意見聴取を行い、可能な限り取り入れている。	管理者と職員の間は日々の会話はもとより、仲間として何事でも気軽に話し合える関係が築かれていて意見要望などを聴いて運営に反映させている。費用を伴う内容案件等は、管理者を通して本部決済を得て反映している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夫々の勤務状態を考慮した上で定期的な査定を行ない、働きやすい職場環境と成るように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議に置いて短時間であるが研修を組み込んでいく必要に応じての介護技術力アップの為に取り組みも個々に行なっている。法人研修に関しては、基本的には各職員の自主性を重んじているが、多数の参加と成っている。また、資格取得支援も行い、各職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	色々な研修に出来る限り参加し、ネットワーク作りをしてサービスの質向上に努めている。定期的にブロック会開催と成っており、積極的に参加することにより意見交換・交流となっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所1, 2ヶ月は特に気配り目配りをして、チームワークとして職員同士連絡を密に取り、ご本人の理解に努めている。ご本人と定期的に面接して、安心して安定した生活と成るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接して今後について充分話し合いをし、不安を取り除き、早期に安心していただけるように努めている。1度だけの面接とはせずに2度、3度と行き気軽に相談したり、されたりの関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々に応じてアドバイスをしながら、介護保険内外の必要な他サービスについての説明なども行い、納得していただいた上で利用に結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思・意欲を尊重し、それぞれの利用者の出来る事を見極めた上で、共に支えあう関係作りをするように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族などが常に訪問し易い環境作りを心がけ、共にご本人の事を考えて支えていくよう心がけている。又ご家族とより良い関係を保つことで、共にご本人を支えて行くようにする。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出などの機会を通じて支援に努めている。ご家族の面会は勿論の事、それ以外にも親戚の方・旧友などの面会もある。また、娘様と共にお中元、お歳暮の品定めなどに外出されたり、ご家族と共に外出外食されたり、息子様宅に出向いたりして思い思いのひと時をすごしている。	これまでの利用者のかかわりや人間関係は、日ごろの会話や家族からの情報で把握している。手紙や電話の取次ぎに加え、知人の来所面接などは、本人や家族の意向を確かめて対応している。更に、思い出の場所の訪問などは家族の協力で思いに添えるように努めている。またその他、外出、外食に加え、時にはお墓参り等も行なって、馴染みの関係継続の支援を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員間の連携により、配慮している。利用者それぞれの個性を把握した上で、支えあいの心を持って接する事により、利用者たちも孤立することなくより良い関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も定期的にフォローして行き、いつでも相談に乗れるよう心がけている。また、要請があれば支援もしていきたいと思っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活の為、すべてが希望通りとは行かないが、出来る限り希望に沿って利用者本位の生活確保としている。各利用者とのコミュニケーションの中から、それぞれの要望の聴き取りを行い、可能な限り受け入れを行っている。	意思表示が出来る入居者には日頃の会話を通じて直接聴いて意向の把握を行っている。しかし意、思表示が難しい入居者には寄り添いで、表情や行動からの汲み取りに加え、家族からの情報の生活暦で、一人ひとりの思いや意向を確認し、外出なども本人本位を前提に、ケアプランを作成して対応している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に確認を行い、入居後の生活に反映するようにしている。また、入居後も把握するように努め、有効な事は生活の中に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント・個人記録を通し、職員間で共有して把握で切るようにしている。毎日の声かけの中で、その日の体調など様子を見て日々変動した対応を行い、メリハリを付けるよう心がけている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、ご本人・ご家族・必要な関係者と一緒に関護計画を作成している。また、個別チェック表を利用して毎月モニタリングを行い、プラン見直しに繋がっている。	入居初期は約1ヶ月の暫定計画で様子を見る。介護計画の見直しは基本的には6ヶ月サイクルで見直しが行われている。ただし、変化が見られる場合は、随時見直しを行う。計画を一人ひとりに適した内容とする為、カンファレンスで日常生活の記録に加え、職員夫々の日々の経過観測結果に基づき意見を述べあって、家族や計画作成担当者との話し合いで、その人の持つ能力が発揮できる介護計画を立案している。また、モニタリングは日々の評価を記録して実行している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ったケアの実践に心がけ、改善点・追加点・削除点などを見出し、新ケアプランに反映している。職員間の”報、連、相”の大切さを訴え、情報共有に努めて実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者それぞれの都度の状況にあわせて必要と思われるサービスをピックアップして、ご本人・ご家族に対して柔軟な支援をするよう心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状として地域資源を十分に活用している状況は無い、グループホームに生活しているうえで、地域の資源活用性が低く成っている入居者もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回のホームDrによる定期健診を行っている。また必要に応じて専門医への受診支援も行っている。	本人、家族の意見を尊重し希望の医療機関を決めている。母体であるつくいけクリニックのDrによる1回/週の定期診療が行なわれ、加えて、みなど赤十字病院・清水ヶ丘病院の協力の下に休日、夜間などの緊急時対応も行ない適切な医療支援が行われている。また、歯科についても横浜南仲通り歯科による往診、緊急事対応の支援を受けている。また、ホームでは時に家族の希望で通院介助支援も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回のNs訪問となっていて、Drとの連携訂正も取れている。また24時間体制となっており、いつでも連絡可能となっている。日々の連絡の中で受診・入院の受入れ先もNsへの相談で可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ訪問したり、Dr・Ns・SWなどと連携を取り病状把握に努め、早期退院に心がけている。又、連携可能となってきた病院もある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前よりターミナルケアに付いての説明を行い、延命処置などの方向性確認も行なうようにしている。	事業所としてターミナルケアを行なう方針を運営規定6条7項に掲げ、主治医、看護師、の協力の下に、本人、家族の意思を尊重した、繰り返しての話し合いで、「重度化した場合における対応に係わる指針」に沿い、ホームを終の棲家として最後の時間を大切にしたいターミナルケアを行う事を「誇れる仕事」と感じて全職員で共有して支援体制を築いている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、対応マニュアルを作成し、対処できるようにしている。定期的にあるいは必要に応じて対処法に付いて研修実習を行い、すべての職員に周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練計画書を作成して、定期的に行っている。又、地域住民との協力体制を整え、火災のみならず、天災に対しても訓練を行っている。	さまざまな災害を想定し、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加え、地域の協力機関との連携で定期的な避難訓練を行うと運営規定11条に定め、2回/年、実施している。更に夜間を想定しての防災訓練も実施して、ホームにおいて災害時の行動手順などの確認も行っている。設備としてスプリンクラーの設置に加え、非常食料や緊急時対応備品の備蓄も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを傷つける事のないように、言葉遣いには気をつけ、尊敬の意を持って接するようにしている。コンプライアンスを充分理解する事で自ずと対応可能になってきている。	ホーム方針として入居者のプライバシーを保ち、人格を尊重して支援をする事を、日々の会話やサービス提供を通じて全職員が理解共有している。実際の介護の場面に於いて、親しみと利用者の人格を尊重した話しかけで支援を行い、トイレ誘導もさり気なく行われている事が調査時に確認できた。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を傾聴し、希望などを把握した上で、叶えられるものとそうでないものを見極め、ご本人が納得で切ような説明をし働きかけを行っている。又、促しにより最終的に自己決定を行っていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのライフスタイルに応じた支援を行い、職員本位とならないように気を付けている。また、希望に添えないときはその理由を明確にして納得いただけるように働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容の促し・援助を行っている。理美容に関しては定期的に訪問していただいている(隔月)又、衣類に関してはご家族であったり、スタッフ対応にてご本人と一緒に購入を行ったりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の嗜好に沿いつつ、できる範囲で食事の準備や後片付け等を行ってもらっている。又、外食・出前(それぞれのメニュー選び)の楽しみも取り入れるようにしている。	食事は食材供給業者により毎月の献立と食材が届けられ、当番職員によって調理が行われている。入居者の出来る事で配膳、下膳に加えて食後の食器洗いを出来る人によって手伝われている。食事時には職員と入居者が同じテーブルに付き、入居者に合わせたペースで楽しく談笑しながら食事が行われている事を調査時の食事同席で確認できた。また時にはリクエストを受け外部からの出前で寿司等の、要望に応える様になっている。誕生日会には、ケーキでパーティーを行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の摂取量に付いては把握し記録に残し手いる。水分補給は脱水にならぬように気を付け、水分不足と思われるときは吸水量の良い物・ゼリー・嗜好飲料にて対応し、それでもだめなときはNsへ連絡するようにしている。また、栄養バランスに付いては宅配業者対応となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後に歯磨きの声かけ・誘導を行っている。又、月4回歯科医・歯科衛生士の訪問があり、居宅療養管理指導(口腔ケア)も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて状態把握をし、失敗による不快感のないようトイレ誘導に努めている。又、安易にオムツ、パッドの使用による感覚喪失にならないように努め、今後は可能と思われる人に対してオムツ外しにも挑戦して行こうと思っている。	「排泄チェック表」で一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らったトイレ誘導で適切な支援が行われている。また下着交換なども他の人に、気付かれない配慮の支援が行なわれ、オムツの使用量を減らす工夫としてトイレでの排泄「オムツ外し」への挑戦が行われている。夜間においても睡眠時間を妨げ無い事を前提に、声かけでの支援をしている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量のチェックを行い、適度な運動を撮りいれ、便秘予防に心がけている。毎日の乳酸菌製品導入により、腸内環境を整えるようにも努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には随時入浴は出来ていないが、職員が本人の体調や気持ちに配慮無理なく実施していると思っている。	入浴は、清潔保持と身体観察に加え、体調変化の把握など重要な役割のある事を全職員で共有して取り組まれている。しかし決して無理強いすることなく本人の意向を確認しながらバイタルチェックと共にタイミングを見計らって、支援を行なっている。嫌がる人には、時間をずらしての声かけ等で入浴を促している。また、季節には菖蒲湯や柚子湯などを楽しめるように工夫もしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人のライフスタイルを把握した上で、昼夜逆転にならない程度に休息安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬表を事務所で管理して、いつでも確認出来るようにしている。又、月2回の薬剤師による居宅療養管理指導を受け、薬に関して判らないこと・注意する事などの把握に努めている。症状の変化に関してはDrと相談の上、処方変更を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の生活歴を充分把握した上で、ケアプランに組み入れ、レクリエーション・散歩・外出など張りのある生活が出来るように支援している。毎日の生活がマンネリ化しないように心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り散歩をしたり、買い物をしたりする機会を作っている。又ご家族などと共に外出・外食・買い物・通院をして頂いている。地域住民の協力体制とまでは至っていない。	散歩を日課として楽しみにしている方もいる反面、車椅子使用の為、出たがらない方もいるが、日々の関わりの中から希望を聴いて誘い、車椅子の方にも出来るだけ多く外出が出来るよう支援を心掛け、近くの公園に出かけたり、買い物に行ったりしている。家族とも相談しながら遠出外出なども計画している。ドライブと称して車を利用して「初詣」「梅、桜の花見」などの取り組みが行なわれている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム管理となっている。自己管理可能な利用者に対してはお小遣い制とし、なくなったら補充する形をとり、散歩外出時に自由に買い物が出る様になっている。その他の日用品に対してはご家族対応であったり施設対応であったりとなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも希望に応じて電話しようが出来、取次ぎも行っている。又、手紙なども自由にやり取り出切るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場である事を考慮して、常に季節感を感じるような空間作りを心がけ、温かみのある家庭的な雰囲気になっている。又、利用者にとって清潔間のある落ち着いた居心地の良い場所となるよう、常に心がけている。	玄関を入ると広めのホールにスタッフルームとエレベーターがある。その奥には広い居間兼食堂が配され、片側に調理室、トイレ、浴室、対面する側に入居者の居室が並び、スタッフルーム、キッチンからの見通しが良い。居間は静かで落ち着いた家庭的な環境が出来ている。またホーム内は掃除が行き届き、不快音や異臭も無く、空調管理も施され生け花や入居者の暮らしがわかるイベント、誕生会等のスナップ写真も貼られ、家族の来訪時には話題として利用されるなど、寛げる空間作りがされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にてひとりで過ごすことも出来、又、リビングのソファにてテレビを鑑賞しているよう、それぞれの思いに過ごせるようになっている。又、テラスに椅子を用意し、利用者とスタッフが午後のひと時を過ごす場面もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの・アルバムなどの持ち込みに関しては、ご家族・ご本人と相談のうえ用意していただき、ご本人が居心地よく安心して暮らしていけるように配慮している。	入居者各人の部屋にはクローゼットと空調設備があり、空調管理を職員によって行われている。部屋には使い慣れた思い出の品が持ち込まれていて、椅子、ベット、と共に家族写真、ぬいぐるみ、得意とする絵画なども張られ、また、仏壇等も置かれ、一人ひとりの思いの設えで生活拠点が作られている。各居室ドアには鍵が有るが、職員がマスターキーを持ちプライバシー保護にも考慮しつつ、万一の備えた工夫もされている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、3箇所のトイレの内2箇所が車椅子利用可能となっているし、要所要所に手すりの設置となっていて、安全性を重視した環境になっている。又、自立支援を促し、出来る事・判る事を把握した上でさりげなくサポートしている。		

事業所名	グループホームふあいと天神橋
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着する新理念を全職員の考えを参考にし作成し、事務所内に掲示し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア招聘によるお楽しみ会を運営推進会議メンバー、地域包括支援センターの協力の下、定期的に行っており、地域住民への参加も要請している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に密着したグループホームであることを活かし、地域の人々に、認知症の人々の理解や支援方法を広める努力をしている。地域住民との交流の機会が拡大してきている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者の意見を積極的に取り入れ、地域での利用者へのサービス向上に活かしている。また施設内の事故などもオープンに報告し助言を得る事により、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市区担当者にご利用者の状況、事業所の実状、ケアサービスの取組みを伝え、訪問を受けることにより、協力関係を築いている。各種連絡会の活用により協力関係が発展している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修への参加、施設内会議時の勉強会などをおして、周知徹底している。また、玄関の非施錠を含めて身体拘束につながるケアを排除している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の実態、禁止法の概要を研修、学習会を定期的に行い、未然に防ぐ努力をしており、職員全員が虐待の違法性を周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加、ホーム内での資料保管、閲覧により、理解し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時、契約時、及び解約又は改定の際に十分な説明を行い、理解を得て納得いただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対しては、常日頃より入居者の意見を尊重し受け入れるように心がけている 家族等に対しては、重要事項説明書などにより説明を行い、また来訪時などに収集した意見は取り入れるようにし、不満・苦情に対しては迅速な対応を心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員が発展的意見を表明できる職場環境を作ることに努め、実現可能な事柄については意見を反映できるよう調整している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力、勤務状況、実績を勤務査定に反映させ、よりよい賃金水準になるよう努めている。また適正な労働時間、残業時間の抑制、計画的な有給休暇の取得及び、夏季、冬季休暇推進により、取得率も向上しており職員のリフレッシュ、労働意欲の向上に役立っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修への参加は本人の希望、有用性を考慮し可能な限り推進している 法人内研修も定期開催されており、毎回参加している。 また、資格取得のための支援も随時行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各種外部研修、法人外交換研修を通じて、職員相互が積極的にネットワーク作りをして、情報交換を行い、サービスの質の向上に役立っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人との面接時に不安・要望を聞く事により把握し、説明により不安をできる限り解消して頂き安心して入所していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接において今後についての不安、要望を聞き、話しあいながら、これからの生活について話し合い、入居初期段階においてもホームの生活に早く馴染めるよう援助し、よい関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始段階での必要とされている初期支援を見極め、その他の必要と思われるサービスの説明もするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に生活する意識を持ち、家庭的環境の中で、本人の希望、意思、意欲を汲み取り、お互いに、支えあう関係を築くように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、家族が訪問しやすい環境を整え、共に本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊・通信などの機会を通じて馴染みの人や場との関係維持の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員間で共有することにより、利用者に働きかけ、利用者同士が孤立せず、また対立せずに関わり支えあえる関係になれるようように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、消息を把握し、連絡、来訪を通じて必要に応じて相談、支援に努めている。サービス利用終了後も訪問、連絡を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の暮らし方の希望を把握し、共同生活の中で可能な限り、本人の意向に添えるような生活環境整備に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時アセスメント、入居前面談にて確認を行い、入居後の生活に活かせるよう努めている。また入居後も本人から聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、生活チェック表及び、職員間の申し送り、本人との会話を通じて、一人ひとりの毎日の状態を把握し共有できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、関係者の意見を聴き定期的なカンファレンスを行い、関係当事者の意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録、生活チェック表、日常の観察とに即して職員の毎日の実践や介護計画の改訂に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御入居者様が生活する場として、折々のニーズに対して多機能性をもって対応できるように柔軟な発想を持ってサービス提供できる様に勤めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事参加、地域ボランティアの訪問などを介して地域に根付いた生活となってきたが、まだまだ地域資源を活用できる様努力する余地がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回のかかりつけ医による訪問診療を行っており、必要に応じて、地域のクリニック、専門医への受診の支援も行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に4回のNs訪問を行っている。日報及び定期訪問時に個々の利用者の情報、きずきを伝えている。 また24時間体制でNsへの連絡が可能となっており、体調の変化に対しては看護職の指示を受けて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への訪問、病院関係者との相互連絡、相談員などとの連携により、病状把握に努めている。また、療養入院先の病院も開拓し関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前説明時に、ターミナルケアについて説明し、事業所として可能なこと、不可能なことを伝えるようにしている。 また、状態が重度化した場合にはご本人・ご家族・主治医・Ns・職員間で連携をとり提携先病院と連携し対応するようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを常備し、対処できるように法人内外研修に派遣して応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練計画書を作成して、防災訓練を定期的に行っている。また地域代表者を通じて、災害時の協力体制を取れるよう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対しては個々の人格を尊重した言葉使い、対応を行っている。 また個人情報保護の法的遵守には、十分な配慮をするよう法人内研修、事業所内研修を通じて職員間で意識共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の話を傾聴し、希望などを把握した上で、ご本人が納得できるような説明をし、出来無いことを明確にしている。また自己決定できるように本人の意思を尊重できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り個々人のライフスタイルを尊重し、自分のペースで暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類で日々を過せるよう支援している。各人がその人らしい身だしなみができる様に整容の援助をしている。 理美容は訪問理美容を活用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各御利用者のできることで、出来無い事を把握しつつ、職員と共に、食材の準備、盛り付け、配膳、下膳、あとかたづけを行っている。また御入居者それぞれが助け合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を個人記録に記載しし、状態を把握しており、水分量が不足しないよう促し、提供している。 また、栄養バランス等については食材配達業者を利用して行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけ・誘導を行っている また、歯科衛生士による居宅療養管理指導により口腔ケア指導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて状態把握をし、排泄の有無、排泄パターンの把握に努めている。またトイレ誘導、見守りに努めている また、重篤な場合、本人にとって負担になってきた場合以外は安易なオムツ使用はしないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食事量のチェックを行い、適度な運動、腹部マッサージを摂り入れ、便秘予防に心がけている。また便秘の予防につながる食材、及び嗜好品（ヨーグルト、乳酸菌飲料等）を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間帯、早朝を除き、できる限り1人ひとりの希望に合わせて入浴できるように、入浴の声掛けをして納得して入浴していただいている。。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように配慮しながら、1人ひとりのライフスタイルを尊重し状況に合わせた休息を取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方薬表を事務所で管理、掲示して、必要時に確認できるようにしている また、2回/月に薬剤師による居宅療養管理指導を受けている。また症状が変化した際にはかかりつけ医に相談し、都度、薬の変更をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を知る努力をし、ケアプランに連動し、レクリエーション・外出などの張りのある生活ができるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、各人の可能歩行距離、身体状況に配慮した上で散歩の時間を作っている、職員との買い物はADL上同行できる御入居者様が限られてきてはいる。家族との外出をできる機会を作られている。地域の人々との協力による外出支援は今後の課題である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的にはホーム管理となっている。個人の買い物等は、職員同行、又は職員に依頼することにより行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望の際の電話使用、家族からの取次ぎは随時行っている。 また、手紙も自由にやりとりできるようにし、ポストへの投函支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせる共有空間を心がけている（七夕、Xマス、正月等のイベント時）常時、生の植物をリビング陳列することはしていない。照明、室内温度は設定温度に従い、利用者の体調、希望を考慮して季節に応じて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのペースで居室にてひとりで自由に過されたり、またリビングのソファにてテレビ鑑賞されたりできるように、ソファ、食卓の配置等、の工夫をしてそれぞれが思い思いに過せるようになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を居室にて使用すること、新たに使いやすい好みの家具、備品を装備することにより安心して暮らしていけるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできることを把握した上で、自立支援を促す形で援助している。建物内部はバリアフリーになっており、車椅子対応のトイレスペース、行動導線への手すり配置により、安全に移動、移乗できるように工夫された建物の内部環境になっている。また安全・有効に使用出来るよう支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所      ループホームふあいと天神

作成日      平成23年10月16日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内 容	目標達成に 要する期間
1		毎日が単調な生活となっている	それぞれの趣味などを取り入れていく。	各ご利用者様に趣味などの聴き取りを行い、余暇の楽しみ（手芸・編み物・将棋etc）を見出し、実践に繋げる。	平成24年3月まで
2		前回の全員参加屋外昼食の実施（中々全員参加とならない為）	全ご利用者様に対して屋外昼食を提供する。	5月に行ったばベキューが好評であったので、9月or10月に行う。	平成23年10月まで

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。